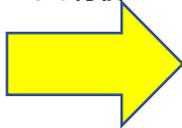


# ～「ここすき」学びの記録～ 「学び」を支える「安心感」



30分後



\* はじめての城山散歩の日。雨上がりの土の感触に驚いたのでしょうか、最初は地面に足をつくことにも抵抗があり、お母さんに抱かれながら、他の子の遊ぶ様子を見ていたWさん。しかし、いつのまにかお母さんから離れて、1人で川に入り、夢中で遊んでいました。その間に、いったい何があったのでしょうか？



1) 川に入ることをためらうWさん。気持ちは前に出るのですが、足が前に出ません。お母さんは握った手を通して「安心感」を伝えます。

2) 「お母さんがいることの安心感」に満たされた時、Wさんは思い切って一歩踏み出しました。

3) 水の感触に興味を持つWさん。お母さんは後ろからそっと支えています。



4) 川の流りに自分から手を出すWさん。お母さんは後ろからそっと見守っています。

5) ついに川の流りに手を入れたWさん。

6) Wさんの心に自分の心を重ねるように、お母さんも一緒に水に手を伸ばします。水に映る影を見ているのでしょうか。

最初は川に入ることをためらい、なかなか足が前に出なかったWさん。

でも、お母さんはその心の揺れにゆったりと寄り添い、あせらせることなく、握った手を通じて、安心感を伝えていました。

そのおかげで、Wさんは、目でしっかり周囲を観察する余裕が生まれ、

「やってみたい」という気持ちが不安よりも大きくなったとき、一歩前に踏み出し、川の中に入ることができました。

その後は、水・光・流れという「自然の不思議」との対話によって、夢中になって遊び＝学ぶことができました。

実は、これはあらゆる学びの基礎にある普遍的な過程です。

子どもは受動的に学ぶのではなく、みずから能動的に環境に関わる経験を通してさまざまなことを学んでいくのですが、その過程を支えているのは、自分を見守ってくれる人がいるから大丈夫と思える「安心感」なのです。

その「安心感」さえあれば、子どもは環境に能動的に関わり、みずから育っていきけるのです。